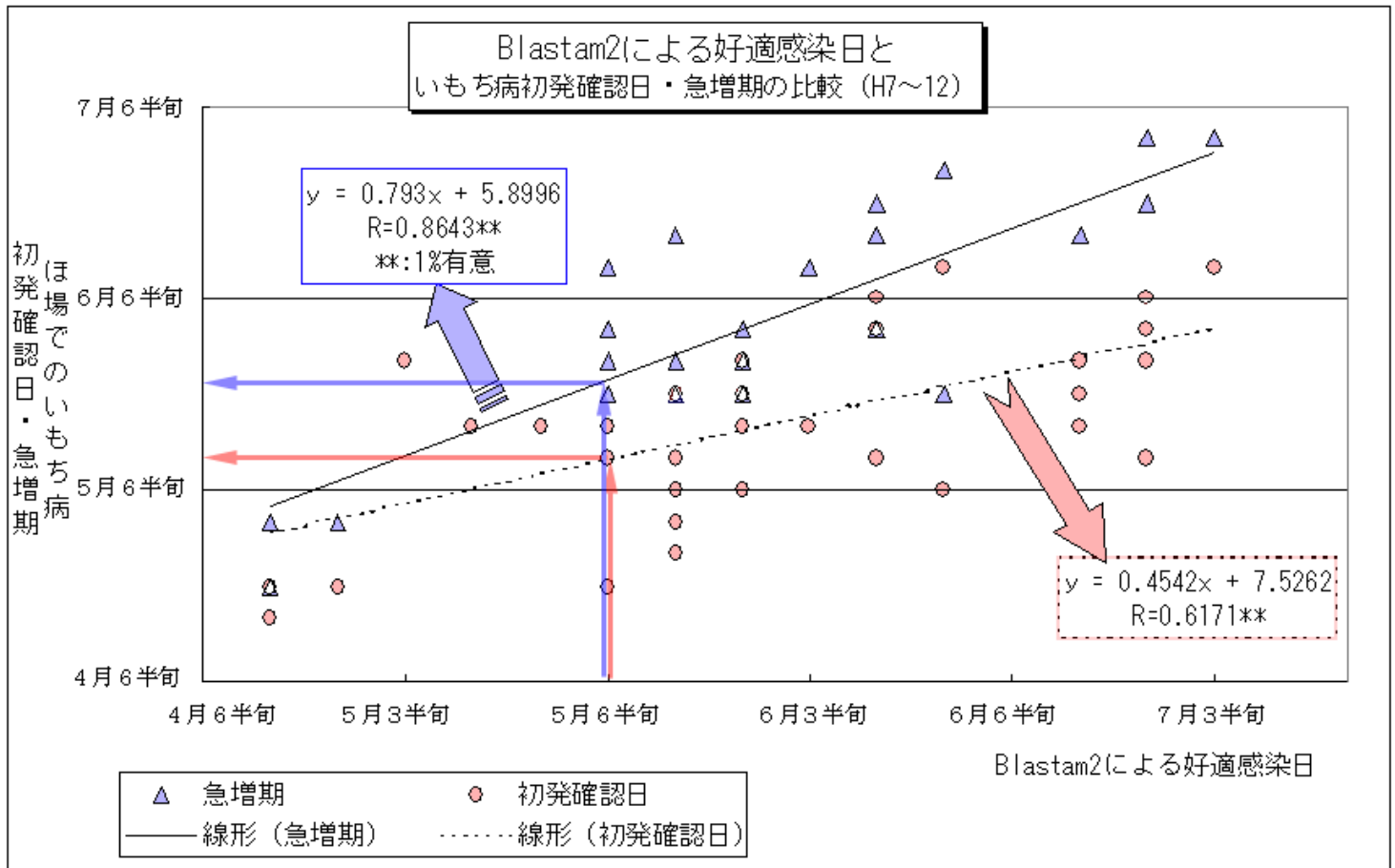


過去（6年間）Blastam2通信簿



○: Blastam2による好適感染日出現日とほ場でいもち病初発確認日の相関

△: Blastam2による好適感染日出現日とほ場でいもち病急増期の相関

○: Blastam2による好適感染日出現日(x)とほ場でいもち病初発確認日(y)の相関は相関係数(R)が0.6171で、xとyは有意水準1%未満で相関がある(** の意味)といえる(Blastam2好適感染日といもち病初発日は99%の確率で関係ある、ということが言える)。

$y=0.4542x+7.5262$ の式のxに“Blastam2による好適感染日出現日”を代入すれば、“ほ場でいもち病初発確認日(y)”が出てくる。ただしこの式は、4月6半旬～7月3半旬の時期に関してのみ、当てはまる。また、代入する日付の値は、半旬(約5日間)を1とした整数値になおして代入する。

△: Blastam2による好適感染日出現日(x)とほ場でいもち病急増期(y)の相関は相関係数(R)が0.8643で、xとyは有意水準1%未満で相関があるといえる(Blastam2好適感染日といもち病急増期は99%の確率で関係ある、ということが言える)。

急増期は、実際のほ場でいもち病発病株率が10%を越えた時点で、“急増期”とした。

ようするに、相関係数を見てのとおり、Blastam2好適感染日といもち病初発日の相関より、Blastam2好適感染日といもち病急増期のほうが、高い相関がある(Blastam2好適感染日によるいもち病初発の予測はあまり当たらないが、いもち病急増期の予測はよく当たる。)。実際はこの時期(いもち病急増期: Blastam2好適感染日出現から14～20日後)が防除適期なので、好都合である。

例

○: 5月6半旬にBlastam2好適感染日が出現した場合、その約1週間～10日後、6月1半旬頃にほ場で、いもち病初発が確認できる(赤い↑←線)。

△: 5月6半旬にBlastam2好適感染日が出現した場合、その約1週間～10日後、6月1半旬頃にいもち病初発が確認され、さらにその1週間～10日後(6月3半旬頃)、いもち病急増期が来る(青い↑←線)。